

校長室だより

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/maruyamaadai/>

1月7日全校集会の講話から

校長 藤 至光

皆さん、おはようございます。

新しい年が始まりました。気持ちを新たに生活していきましょう。

国内でも新型コロナウイルスの感染が広がりつつあるようです。改めて感染症の感染防止に努めるとともに、健康、安全に十分注意して過ごしてください。

さて、去年はオリンピック・パラリンピック以外にも多くの日本人が世界で活躍されました。コロナ禍で何となく沈んでいる時に、ビックニュースで日本中に元気をもたらしてくれました。私はゴルフをやりませんが、松山英樹さんのマスターズ優勝はおおいに感動しました。日本の男子選手で初めてのメジャー大会優勝でしたから。

それでも、やはりメジャーリーグでMVP（最優秀選手）を受賞した大谷翔平選手の活躍はすごかったですね。日本人の受賞はイチローさん以来二人目で、20年ぶりだそうです。彼が受賞できたのは、投手と打者の二刀流での活躍ぶりが評価されてのことですが、過去にもプロの世界で二刀流に挑戦した選手はいたようですが、年間通して投打にわたって彼のように活躍した選手はいませんでした。それは、身体に相当な負担がかかるからだそうです。しかし、大谷選手はプロになる前から二刀流で活躍することを目標に掲げて取り組んできました。

アメリカにわたり、肘や膝の手術をするたびに、二刀流をつづけていくことに対して、多くの専門家や評論家が「無理だ」「投手か打者のどちらかなら活躍できる」などと批判的な見方をする中でも彼は二刀流にこだわり続けました。そして、投手としても打者としても「本当に純粋にどこまでうまくなれるのかな」という思いで取り組んできた結果が成績につながり誰からも認められ、愛される選手になりました。

大谷選手の活躍によって、日本でもアメリカでも「二刀流に挑戦したい」という人が増えてきました。今まで無理だと思われていたことを可能にしたからです。これは野球界に限ったことではないそうです。大谷選手が、いろいろな人の未知なる可能性にチャレンジしようとする背中を押してくれたわけです。

本校の学校教育目標に「まちに生き、自分で自分の生き方を切り拓いていく人」とあります。皆さんは、今年どのようにして自分の生き方を切り拓いていこうと考えていますか。今までの常識にとらわれず、だれもが無理だと思ふようなことでも、自分が興味をもったこと、やってみようと思ったことにチャレンジしてみましょう。昨日の自分をちょっと越えようとすることで、明日の世界がひらかれます。そんな皆さんを応援していきます。

